



# 千葉労働動員

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043(222)7207 番

94.5.31 No. 4001

## — 5.28 第32回 定期委員会 —

# 乾坤一擲 6.19 決起を決定!

### 情勢に立ち向かう動労千葉たれ

われわれは、今の情勢に立ち向かう動労千葉を作らなければならぬ。

それは何よりも、朝鮮半島をめぐる一触即発の状況の中で、どういう立場をとり、どういう闘いを労働組合としてしなければならぬのかということが問われている。

### 労働組合が潰されたときに

### 戦争へ行き着いている!

第一次朝鮮侵略戦争は、マッカーサーによるGHQ占領下、五〇年から三年にも及ぶ戦争に向かつて、「政令二〇一号」による公務員スト禁止、定員法による数十万の首切り等々が行なわれた。この過程は、首切りとレッドパージ、国労と全通への弾圧、産別会議―ナショナルセンターの解体へと進み、当時第二組合的なのとして総評が結成された。総評は、一年後「二ワトリからアヒル」へと変わるわけだが、日本は朝鮮侵略戦争の兵站攻撃基地として、デスマーチチャントによる経済復興・高度経済成長を遂げたのだ。一九五五年に出来た五五年体制とは、戦後流された血の上に出来たものだ。労働組合が潰されストも

できないようになったときに戦争が行なわれる。

歴史はそれを如実に示している。一九四〇年大日本産業報国会の発足は、それぞれの労働組合が大会・委員会をもって解散した。そして一九四一年パールハーバーに行き着いている。

### 核疑惑を理由とした戦争挑発の本質はアジアの市場収奪!

一九八九年、「分・民」強行後二年、総評解体―「連合」が結成された。労組の変質は、賃上げ闘争もストもうてない極めて危険な状態だ。朝鮮侵略戦争の危機は、ベトナム・カンボジア・中東とは比較にならない切迫性をもっている。

北朝鮮の核疑惑がなぜ戦争に行き着くのか? イスラエル・インド・パキスタンも核を持っている。核不拡散防止条約違反を理由とした、チームスピリットをはじめとした戦争挑発をもって、どう北を攻めるか、いちばん騒いでいるのは米・日であるところに、アジアの権益をめぐる本質が色濃く出ている。

### 有事体制確立内閣として登場してきた羽田―小沢内閣!

第二次連立内閣は、有事体制内閣として、その仕組みを作る内閣として登場してきている。戦後体制の中で日本には、危機管理・有事体制がない。たとえば「分割・民営化」七分制体制によって、北海道からの「軍用列車」ひとつ仕立てられない。国鉄時代には公表されない裏ダイヤがあった。しかしいまではJR体制によって出来ない。又、恵庭でC-190行動試走訓練があったそうだが、重量制限によって、高速道路をいまの法律では走らせられない。料金所も通れない。通信部門もNTTになつている。国営の飛行機もない。港湾を優先使用する仕組み、労働者を駆り出していく仕組み等何もない。何の法整備もされていない。ここに本格的に着手してくることは明白だ。

日本がアジアへ出ていく場合、すべて朝鮮半島経由だ。世論の動向においても、柿沢・熊谷と危機を煽っている。事態は進行している。これは労働組合を一掃していくという攻撃に行き着くし、そういう関係に入ったのだ。

### 朝鮮・アジア人民と連帯する反戦闘争を構築しよう!

いま、在日朝鮮人の闘いが注目されている。大阪朝鮮総連への家宅捜索は明確な治安弾圧の一環であり、民族弾圧そのものだ。これに対して日本政府へ三年ぶりにデモが七千人という規模で行なわれている。攻撃の意図を見極めない闘争方針はふつとばされる関係にある。権力の動労千葉を見る見方も変わったと見なければならぬ。反戦闘争に日本の労働者を中心として高揚させること―六・一九反戦全国集会を乾坤一擲成功させなければならぬ。(第三二回定期委員会での中野委員長総括答弁の要旨を抜粋)

## 全国反戦集会に総決起しよう!

「朝鮮侵略戦争阻止、有事立法・核武装化粉碎」

羽田・小沢政権打倒! 全国総決起集会!

日時 六月一九日(日) 正午より

場所 東京渋谷・宮下公園(渋谷駅下車徒歩五分)